

さらなるスポーツ環境の整備を

釧路市体育協会 会長 張江 悌 治



平成元年6月1日、釧路市並びに釧路市教育委員会が「スポーツ都市宣言」を行ってから、四半世紀が経過しました。

生活する地域や活動する種目の違いはあっても、多くの市民は「市民皆スポーツ」を合言葉に、心と体の健康、明るい生活、友情と交流、健やかなまちづくりを目指してスポーツに取り組んできました。

その間、当協会は各種の事業を通してスポーツの楽しさや効用が実感できるようなスポーツ環境づくりを手掛けてきました。具体的には、釧路市体育祭や各種講習会の開催、優秀選手や功労者の顕彰、全道・全国大会の誘致・開催協力、スポーツ少年団の育成、体育施設の充実に向けた要望活動、社会貢献活動などの事業です。

さて我が国のスポーツ界では、様々な暴力行為が顕在化してきている現実があります。暴力行為は、人間の尊厳を否定し、信頼関係を根こそぎ崩壊させ、愛好者を減少させ、スポーツの公正さや公平さを蝕み、スポーツそ

のものの存立さえ否定するものです。スポーツが人間にとって貴重な文化であるにもかかわらず、暴力行為によってスポーツの価値を著しく冒瀆することは、恥ずべきことです。

スポーツ環境には、体育施設・設備のみならず、日頃の練習や試合等のスポーツ活動場面も含まれます。4月の評議員会において、暴力行為根絶の主体的推進者である各加盟競技団体に対し、毅然たる対応をお願いしたところです。

- ・指導者は、暴力に頼らず、指導力の向上を。
- ・組織を挙げて暴力行為根絶の推進を。

暴力行為根絶の実現には、スポーツの未来を担うのは現代を生きる自分たちであるとの自覚の下に、暴力行為から神聖なスポーツを断固護りぬこうとする決意や行動力が必要です。

当協会は、釧路市のアマチュアスポーツの統括団体としての社会的役割を十分認識し、釧路市民から信頼され期待されるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

それには各加盟競技団体のご理解とご支援が是非とも必要などころであり、関係皆様方の益々の発展を願いつつ、スポーツ環境のさらなる整備を進めていく所存です。

わが経験を生かして貢献する

釧路市体育協会 副会長 菅原 賢 司

平成25年度の釧路市体育協会評議員会で副会長の大任を仰せつかりました。

私の柔道は高校で始め、その後、整骨師の資格取得のため仙台の東北柔道専門学校に進みました。柔道に明け暮れ、当初の目的は果たすことができましたが、何か物足りなく思っていたところ、ある方の勧めがあり大学に進学し、さらに柔道を通じて鍛錬及び技能を身に付けました。

大学卒業後、一大転機となったのが、柔道の恩師である猪熊功先生からのお誘いでした。当時イギリスの支配下に置かれていた香港柔道館という道場に赴き、柔道の

指導に専念しました。高校、専門学校、大学、香港と、柔道を通じて大勢の人と出会い、試合での緊張感、教えを通じての人間関係の構築など多くの事柄を学ぶことができました。

少子化、スポーツ人口の減少が叫ばれる現在、課題が山積しております。今まで、自分が歩んできた経験を釧路市体育協会に少しでも役立たせることができればと思っております。



釧路市体育協会表彰式

功労賞に原田清治氏 (釧路アイスホッケー連盟)

功 労 賞



原田清治氏は、41年間にわたり釧路アイスホッケー連盟に所属。現在は副会長。その間、若手選手の育成をはじめ数多くの競技会を成功に導き、氷都くしろの基礎づくりに大きな功績を残しました。

優秀選手賞



新濱立也さんは今年2月、北海道帯広市の明治北海道十勝オーバルで行われた第3回全国高等学校選抜スピードスケート競技会において、500mに出場。第2位の成績を収めました。

優秀選手賞



岡田 峻さんは今年2月、長野県長野市のオリンピック記念アリーナ：エムウェーブで行われた第33回全国中学校スピードスケート大会において、500mに出場。第3位の成績を収めました。

優秀選手賞



阿部和憲さんは今年3月、新潟県長岡市のDPフェニックスプールで行われた第35回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会において男子10歳以下50m平泳ぎに出場。優勝を果たしました。

8月23日(金)夜、釧路市体育協会表彰式で、主催者の張江会長は「いつもリンクに立ち続けていた原田さん。アイスホッケーに情熱を傾けた姿はスポーツを愛する者の模範となる」とその功績を高く評価しました。さらに優秀選手をはじめ会場に詰めかけた各競技の選手に向かって「釧路市の若者が全国で優秀な成績を収め、スポーツ振興の一翼を担ってくれている。今後、ますますの精進を」と激励しました。

秋季体育祭開会宣言・30種目一斉開始 スポーツの秋に健闘を誓う

第68回釧路市秋季体育祭の総合開会式が8月23日夜、「湿原の風アリーナ釧路」のサブアリーナで行われ、各競技の昨年度優勝チームの選手ら約270名が駆け付けました。

大会長の千葉誠一教育長が「最後まで諦めることなく、同時に他のチームの皆さんとの交流の輪が広がるような夢と感動を与える競技展開を期待する」とあいさつしました。続いて大会委員長の張江悌治会長が「釧路の競技レベルは年々上がってきている。これは熱心な指導者と丈夫な体を授けてくれたご両親の愛情の賜物。全国大会に向けて羽ばたいてほしい」と激励しました。

代表して、釧路市ラグビーフットボール協会の渡邊憲一選手が「日々の鍛練を発揮するため、最後まで全力で戦うことを誓います。」と力強く宣誓し、競技にかかる意気込みを示しました。

体育祭は、軟式野球、クレール射撃、テニスなど既に開

幕した種目もありますが、多くは9・10月に集中しており、30競技で約6,000人が出場し、市内各地で熱戦が繰り広げられます。



開会式会場



優勝杯返還



大会委員長あいさつ



選手宣誓

フェアプレーでサッカーを楽しもう

鉚路地区サッカー協会

会長 佐藤 茂



サッカーは世界中でも愛される熱狂的なスポーツの一つである。ボール一つあれば古今東西どこでもプレーが可能となる。

さて、当協会は昭和33年度に創立され、翌昭和34年度に鉚路市体育協会に加盟している。本年は創立55周年記念として8月4日にPlenusなでしこLEAGUE(なでしこ鉚路の陣)を招致・運営した。日本代表のDF岩清水梓選手・MF阪口夢穂選手(以上日テレ)やFW丸山桂里奈選手(大阪高槻)らの活躍は未来のなでしこや多くのファンに夢と希望を与えた。また、傘下のフットサル連盟は6月23日に湿原の風アリーナ鉚路において行われたFリーグエスポラーダ北海道対シュライカー大阪戦の運営協力で北海道開幕戦の勝利に貢献した。

本協会は鉚路管内のサッカー競技をとりまとめ、現在登録選手数約2,100人、登録チーム数89、審判員約700人で活動する団体でもある。今後とも地区・全道・全国大会の運営はもとよりスポーツの普及発展を通してさらなる社会貢献をしていく所存です。

底辺の拡大を目指して

鉚路管内ソフトボール協会

会長 張江 悌治



昭和38年、当時、鉚路市内の高校の先生方を中心に「鉚路ソフトボール協会」が設立されました。その後、急激にソフトボールが普及し、昭和59年

の市及び8町1村の支部代表制で「鉚路管内ソフトボール協会」と名称を変更し活動を続け、今日に至っています。

今年は男子15チーム、女子3チーム、高校女子1チーム、審判員及び協会員等450数名の所帯で運営・活動しています。5月の初めから10月10日まで12大会を毎週日曜日に計画し、1チーム年間24試合を消化し、楽しんでいきます。

今後も、大事にして応援したい事業は、「魚河岸ソフトボール大会」です。鉚路の水産業に従事する方々が一堂に集う大会で、われわれ協会が目指す底辺の拡大に一定の役割を果たしているものと認識しております。また、今年から各チームからの選抜選手によるオールスター戦は、技術の向上と愛好家の祭典として継続していきたいものです。

課題として、審判員の高齢化、指導者不足、少子化は、底辺拡大のブレーキとなっています。

安全登山を目指して

鉚路山岳連盟

会長 松川 和憲



当連盟は、昭和21年9月に設立され、現在7団体が加盟しています。鉚路地方における登山活動及びスポーツライミングの健全な発展を図りつつ、加盟団体相互の親睦

を促進することが目的です。事業には、春の一般募集登山会、体育祭登山会、安全登山啓蒙、遭難対策、自然保護等であり、それに伴う研修会も含まれます。安全な登山を目指し、とりわけ山岳スポーツ指導員の養成に力を注いでおります。

国体の山岳競技内容は、従来の「縦走」から「クライミング」に移行し、多くの高校生を含む道内選手が全国大会で活躍しています。その為にも鉚路地方での選手が育つ環境づくりが必要です。

各加盟団体は、それぞれ特色のある独自の活動でニーズにあった山行を行い、更に幅広い交流と登山技術、知識向上の為に鉚路山岳連盟に集い活動の輪を広げています。

鉚路地方には当連盟に未加入の登山愛好家が大勢います。その方々の組織化を進められれば山での事故遭難や自然破壊などの未然防止が可能と考えます。今後、一般市民募集の登山会は元より、より多くの方々に楽しんでもらえる企画、アイデアが必要と考えます。

(文責 千田 榮三)

鉚路クレー射撃協会の現況

鉚路クレー射撃協会

事務局長 田畑 篤



当協会の発祥は、昭和27年4月に発足した鉚路射撃協会の創立からです。その後、昭和52年には、発展的に改名した鉚路クレー射撃協会として現在

まで活動を続けてきております。

クレー射撃というスポーツはオリンピック競技の一つでもあり、日本国内では国体などの大きな舞台に出場するべく全国で力を競い合っています。

鉚路クレー射撃協会では、平成7年に国体出場を果たし、それをかわきりに平成15年から毎年国体出場を果たしています。

現在、鉚路クレー射撃協会では上部団体である日本クレー射撃協会及び北海道クレー射撃連盟に所属し、あらゆる主催競技、行事に参加するかわら当協会主催の月例会を開催し、会員の技術レベルの向上に日々専念しています。また、会員の増強にも積極的な取り組みを進めておりますが、銃砲に対する規制が厳しいため、まだまだ大幅な会員増強には至っていない現状です。今後も射撃スポーツの向上と普及のため努めていこうと考えています。

東日本の覇を競う

第56回東日本学生バドミントン選手権大会が8月31日から、湿原の風アリーナ釧路で開催されました。

関東、東北、北海道から、44校、73チーム、約880名の大学生が集結。バドミントンの頂点を目指し、ハイレベルなゲームを展開しました。

会場である湿原の風アリーナ釧路は、サブアリーナを含めコート数19面を誇る優れた競技会場であり、床面、照明、充実した付属設備等々、出場した選手からは極めて好評でした。

6日間日程で総試合数1200に及ぶ大規模大会。後援・協力にあたった釧根地区バドミントン協会の見事な運営ぶり、本当にお疲れ様でした。



平成25年度釧路管内スポーツ少年団 スポーツ交流会

釧路管内スポーツ少年団連絡協議会・管内交流事業が、釧路市が主管となり、9月21日(土)、湿原の風アリーナ釧路で開催されました。

この交流事業は毎年管内の市町村が持ち回りで主管し、本年は77名が参加してドッジボール、ロープジャンプ、リレーなどの軽スポーツやウルトラクイズで交流を深めました。

参加者は指導者のルール説明を聞いたあと、早速ゲームに挑戦しました。普段は取り組んでいない種目だけに、勝手が違う様子でしたが、そこは運動能力を高めてきた団員たち。メインアリーナで元気な汗を流しました。



「し続ける」ことをおろそかにはできない。20歳前後のピークから加齢とともに下がっていく体力。高齢になった時にちゃんと生活できるレベルの体力があるかが心配である。たった一度の人生だから、ぎりぎり最後まで健やかであり続けたい。

「観る」側として感謝▼一方、スポーツを「する」側として「支え」てくれた関係皆様「観る」の紅白分け、男女混成のチーム編成等々、主催企業や主管団体の関係者が楽しみながらアイデアを出し合っている実現である。▼今回の大成功が実に嬉しい。次回開催を思うに、「観る」楽しさがますます大きくなっていくものと確信する。この大会を「支え」てくれた関係皆様「観る」

平成25・26年度釧路市体育協会役員

平成25年度評議員会において、はじめに理事選出団体の選出及び専務理事の互選がなされました。その後、役員選考委員会による会長・副会長の原案提示があり、満場一致で推挙されました。

役職名	氏名	選出団体
名誉会長	清水幸彦	バウンドテニス(名誉会長)
会長	張江悌治	陸上(会長)、ソフトボール(会長)
副会長	栗林定徳	スケート(会長)
副会長	横地敏光	体操(会長)、陸上(副会長)
副会長	北村剛	阿寒支部(支部長)
副会長	足立功一	アイスホッケー(会長)
副会長	菅原賢司	柔道(会長)
専務理事	高橋優夫	学識経験者
理事	八幡一義	阿寒支部(副支部長)
理事	眞籠敏夫	音別支部(支部長)
理事	大道裕昭	陸上(理事長)
理事	染谷友久	軟式野球(理事長)
理事	中村政男	ソフトテニス(副会長)
理事	小松重知	卓球(理事長)
理事	武田和夫	バレーボール(理事長)
理事	吉田省史	バスケットボール(理事長)
理事	谷口秀生	バドミントン(理事長)
理事	伊藤寿章	柔道(理事長)
理事	三森敏司	サッカー(理事長)
理事	野田昇	ソフトボール(理事長)
理事	福光壽男	空手道(理事長)
理事	中嶋進	スケート(理事長)
理事	澤崎晋司	アイスホッケー(理事長)
理事	石川元也	剣道(副理事長)
理事	山辺文彰	ハンドボール(理事長)
理事	佐々木勝也	パークゴルフ(会長)
理事	平正幸	テニス(会長)
監査	橋本勢津子	弓道(会長)
監査	佐藤茂樹	ボウリング(副会長)
評議員	加盟団体から各1名 阿寒・音別支部から各2名	

編集後記



スポーツを実際に「する」人とそうでない人との二極化がいつそう進んだと言われる。しかし、その一方でスポーツを「観る」「支える」といった関わり方をする人が多くなり、それぞれのライフスタイルに応じた形で、スポーツは私たちの生活の中に浸透している。スポーツとの関わり方は今後ますます多様化していく▼過日、ソフトボールの紅白対抗オーグスター大会が開催された。釧路市、釧路管内の男女8チームの選拔選手30人による豪華イベントとなった。剛速球、そして、満塁ホームランなど、熱戦の中に地元一流選手によるハイレベルのプレーが随所で見られた▼実は、この大会は第1回、すなわち初開催なのである。新たに競技大会を「つくる」ことは、スポーツ活動を「支える」取り組みでもある。優秀選手賞などの各賞の設定、メンバーの紅白分け、男女混成のチーム編成等々、主催企業や主管団体の関係者が楽しみながらアイデアを出し合っている実現である。▼今回の大成功が実に嬉しい。次回開催を思うに、「観る」楽しさがますます大きくなっていくものと確信する。この大会を「支え」てくれた関係皆様「観る」